

令和5年度 西都市立穂北小学校 学校運営評価

4段階評価 4 できている 3 ほぼできている 2 あまりできていない 1 できていない

《学校の教育目標 心豊かで、知性にすぐれ、たくましい体をもった実践力ある子どもの育成》

重点目標	重点目標達成の手段	具体的目標や取組	結果の分析・考察及び改善策	評価		運営協議会委員評価コメント
				自己	委員	
よく考え、進んで学ぶ子ども	① 日常授業の改善・充実	1 4つのチェックポイント(めあてとまとめの整合性、指導内容の精選とテンポ、子供の実態にマッチしているか、的確な教師の指示・発問)を活用した授業づくりに取り組む。	めあてとまとめを学級全体で考えたり、個人で考えをまとめたりして、思考をうながすようにしたり、対話的な学び合いを意識させながら授業を展開したりしてきた。効果的なICTの活用についても1人1授業を通して行った。今後も相互参観する機会を設け、ICTも活用しながら、「主体的」「協働的」「探究的」な活動となるように研究を進めていく。さらに、学力向上という点からも、学力調査の問題に対応できるように対策を進めていく。	3.3	3.6	・参観日等でICTを活用した授業が充実してきていると感じた。 ・ICT活用についてかなり進んでいることを実感し、感動した。 ・ICTの活用が十分なされている。今後さらに、考える時間、作業の時間、話し合いの時間等を十分確保できるようにICTを活用してほしい。 ・従来型の授業とICTを活用した授業のバランスが今後重要になると感じた。 ・着席し、姿勢を正す子どもたちに成長を感じ、うれしく思い安心することができた。 ・聞くことがまず第一なので、全児童が教師の方を向いていることが前提の授業をしてほしい。 ・読み聞かせも大切だが、児童自身がしっかりと読むことが大切なので、児童にも声を出して人前で読む機会を今後も設けてほしい。 ・6年間を通して、穂北小のキャリア教育で将来の目標や夢が具体的に言えるような児童の育成を目指してほしい。 ・今年度から実施された午前中5時間授業がどうだったのかが気になる。
		2 協働的な学びを意識したICTの効果的な活用をするとともに、対話的な学び合いによるアウトプットからの学力の定着を図る。		3.0	3.4	
		3 授業において習熟の時間を確保する。		3.2	3.1	
		4 単元テストの目標得点を達成する。		3.0	2.8	
	② 学習技能・学習習慣の確実な定着	5 チャイム着席・立腰の徹底による学習支援の向上をめざす。	日常的に指導し、見届けを行っているが、まだまだ身につかないことも多い。今後は、児童に身に付けさせたいことを全職員で共通理解して、全ての職員が同じ目線で指導するようにしていく。	3.0	3.4	
		6 授業中に、聞く・書く・話す・調べる・間違いをやり直す活動について重点的に指導し、学び方を身に付けさせる。		2.9	2.8	
	③ 読書活動の充実	7 読み聞かせ、図書貸出を確実に行う。	意図的に図書室の利用を増やしたり、担任による読み聞かせをしったりすることで、図書室の利用や読書を習慣づけることができた。読み聞かせグループ「大きな木」による読み聞かせもたいへんありがたい。今後は、選書の質が上がるように手だてを講じていく。	3.4	3.5	
		8 家読の取組を通して、読書を推進する。		3.2	3.2	
		9 読書量の目標を達成する。		2.8	2.9	
	④ キャリア教育の取組の充実	10 キャリア教育の視点を意識して学習活動を推進する。	さいと学を中心に総合的な学習の時間を充実させてきた。また、自立した児童の育成を念頭に置いての指導をしたり、キャリアパスポートを有効に使ったりしてキャリア教育に取り組んできた。今後も、現在計画されていることを確実に実行しながら、外部講師等を有効活用し、キャリア教育につなげられるようにしていく。	2.9	3.2	
① 道徳教育・人権教育の充実		11 資料活用(挿絵・ワークシート・デジタル教材・「わたしたちの道徳」・郷土資料)を工夫して、週1時間の道徳の授業を確実に実行し、心に響く授業を目指す。		人権教育の取組や道徳の時間を確実に実行し、道徳的価値について自分事として考えさせる機会を大切にしてきた。参観日でも道徳の授業を行い、保護者にも啓発している。今後も、現在の取組を続け、学校の教育活動全体を通して児童の道徳性を磨いていく。	3.1	3.2
12 学校の全教育活動を通して、人権やいじめに関する指導の充実を図る。		3.3			3.7	
協力し合い、人を思いやる子ども	② 心を育む日常指導の充実	13 5つの無言の場を徹底する。	あいさつや会釈ができるようになってきたと思われる反面、まだまだできていない児童も多い。また、帰宅時刻を確実に守ることができない児童も見られる。さらに、言葉遣いが気になる場面も時々見受けられる。今後はこれまで以上に全職員で指導内容を共通理解し、全職員で同じ指導を繰り返していく。	2.2	2.4	
		14 気持ちの良い挨拶や返事ができるようにする。		2.8	2.7	
		15 思いやりのある言葉づかいができるようにする。		3.0	2.9	
		16 「無言そうじ」「磨きそうじ」「見つけそうじ」ができるようにする。		3.0	3.0	
		17 整理整頓(くつならべ・使った道具の後始末)ができるようにする。		3.1	3.4	
		18 自分の命を自分で守る意識と態度を身に付けさせる。(登下校・自転車乗り・地震・風水害・火災・不審者)		3.0	3.0	
		19 「あのねカード」を活用して一人一人の気持ちに寄り添った教育相談を行い、いじめ防止に向けた取組を充実させる。		3.6	3.5	
		20 満足型の学級集団を目指して学級経営を行う。(年2回Q-Uの実施)		3.2	3.2	
④ 地域の人材や素材、特性を生かしたふるさとを愛する心を育む取組の推進	21 さいと学・体験活動・子ども太鼓踊りの取組を充実・改善する。	生活科での町探検や、凧作り、米作り等は、穂北地区のみなさんのおかげで児童の豊かな体験につながり、穂北のよさや人と人との結びつきに気付くことができている。今後は、穂北ならではの活動を通して、ふるさとを愛する心を育む取組を推進していく。	3.3	3.3		
	① 運動量を確保した体育の授業と日常運動の推進		22 運動量を確保した系統性のある体育の授業と指導法の工夫を行う。	体育科の時間は、主運動につながる補助運動や児童に身に付けさせたい力を意識して指導してきた。持久走の期間に持久走カード等を活用したり、計画的に持久走を行ったりすることで体力の向上を図った。今後は、体育科の時間だけではなく、昼休みや放課後にも児童が外で運動するような取組をしたり、スクールスポーツプランを活用したりして児童の体力向上を目指す。	3.2	3.4
ねばり強く、たくましい子ども	② 基本的な生活習慣の定着(早寝・早起き、朝ご飯、メディアコントロール)	23 体力向上プランに基づいて、体力向上の措置を講じるとともに、日常運動と昼休みの外遊びを積極的に継続する。	2.8		2.7	
		24 望ましい生活リズム(早寝・早起き、朝ご飯、メディアコントロール)を定着させる。	2.9	3.0		
		25 保健だより、学校保健委員会を活用し、保護者への情報発信を積極的に行う。	3.2	3.2		
	③ 健康の維持増進と意識の向上を図る取組の推進	26 「元気っ子タイム」と日常指導により、計画的な健康教育を進める。	3.6	3.5		
		27 給食指導、弁当の日の取組を通じた食育指導を充実させる。	3.4	3.3		
		28 欠席日数の減少とむし歯の治療率を向上させる。	2.9	6.8		

【総評】  
 ○ICTの活用について、高い評価をいただいた。今後は、「協働」をテーマにICTをどう使えば効果的なのかを検証していく必要がある。  
 ○学力はもちろん、体力についても「スクールスポーツプラン」をもとに児童個々の体力向上に努めていく必要がある。  
 ○各職員の指導が生き、学習に向かう姿勢についてもよい評価をいただいている。今後も、学習への意欲が高まるような指導を続けていく。  
 ○キャリア教育については、より自発的に学習を進められるように学習を計画し、地域人材も活用していく必要がある。  
 ○メディアコントロールについては、今後も課題となってくる。保護者への啓発と家庭からの協力を得ながら、学校と家庭がいっしょに進めていく重要な課題であるととらえている。